

施策体系シート(行政経営Bシート)

作成者	組織	企画振興部空港企画課	職	課長	氏名	白井 晴基
評価者	組織		職		氏名	

施策	施策の目標	成果指標	単位	目標値 (年度)	現状値		評価
					(年度)	(年度)	
施策1	小松空港の国際化推進とポテンシャルを活かした物流拠点空港づくり	1 小松空港の利用者数(国内線・国際線(チャーター除く))	千人	2,667 H27	2,302 (H26)	(H27)	
		2 小松空港の貨物取扱量(輸入・輸出)	トン	33,000 H27	10,802 (H26)	(H27)	
施策2	のと里山空港の機能拡充と利活用の推進による地域拠点空港づくり	のと里山空港の利用者数(国内線)	千人	215 H27	144 (H26)	(H27)	

施策の目標達成に向けて重点的に取り組むべき課題							課題に対する主な取り組み				評価				
施策	課題	成果指標	単位	目標値 (年度)	現状値		事務事業	対象	予算 (千円)	決算 (千円)	事業の有効性	今後の方向性			
					(年度)	(年度)									
施策1	課題1 国内定期航空路線の維持・拡充	利用者数(チャーター便除く)	千人	2,526 H27	2,126 (H26)	(H27)	小松空港国内線利用促進事業	利用者、航空会社等	6,300						
							小松空港活性化事業	利用者、航空会社等	50,000						
	課題2 国際定期航空路線の維持・拡充	利用者数(チャーター便除く)	千人	141 H27	176 (H26)	(H27)	小松空港国際線利用促進事業	利用者、航空会社等	47,474						
							再掲: 小松空港活性化事業	利用者、航空会社等	50,000						
							ソウル便の維持・拡充	利用者数	千人	63 H27	34 (H26)	(H27)			
							上海便の維持・拡充	利用者数	千人	42 H27	30 (H26)	(H27)			
	台北便の維持・拡充	利用者数	千人	36 H27	112 (H26)	(H27)									
課題3 国際物流拠点化の推進	国際航空貨物取扱量	トン	33,000 H27	10,802 (H26)	(H27)	小松空港国際貨物利用促進事業	航空会社、フォワーダー、荷主等	17,800							
施策2	課題1 国内定期路線の維持・拡充	利用者数	千人	215 H27	144 (H26)	(H27)	のと里山空港需要拡大等強化事業	県内・首都圏利用者等	108,600						
							のと里山空港二次交通支援事業	県内・首都圏利用者等	2,710						
	課題2 国内定期路線の開設	路線数	路線	2 H27	1 (H26)	(H27)	再掲: のと里山空港需要拡大等強化事業	県内・首都圏利用者等	108,600						
							再掲: のと里山空港二次交通支援事業	県内・首都圏利用者等	2,710						

事務事業シート(行政経営Cシート)

事務事業名 小松空港国内線利用促進事業	事業開始年度 H11	事業終了予定年度
	根拠法令・計画等	

作	組	織	企画振興部空港企画課			
成	職	氏名	主任主事 鶴井 達也			
者	電話番号	076 - 225 - 1337 内線 3734				

事業の背景・目的
 小松空港の国内路線の維持充実を図るため、羽田便をはじめとする各地への路線に加え、羽田空港での乗継などについて利用促進を実施するほか、「小松空港の概要」の作成等を行う。

- 事業の概要**
1. 事業主体 小松空港協議会
 2. 事業概要
 - (1) 羽田国内乗継利用促進事業
 - ① 航空乗継利用促進協議会事業
 - ・航空会社と一層連携した乗継の周知及びキャンペーンの実施
 - ・各空港で利用可能な共通広報ツールの作成による乗継PR
 - ・乗継利用者対象の羽田空港ラウンジ無料キャンペーンの実施
 - ・公式ホームページ、Facebookでの情報発信
 - ・航空会社に対する合同要望
 - ② 小松空港単独事業
 - ・先行的なモデル確立に向けた双方向での旅行商品造成・広報支援
 - ・広域エリアからの乗継インバウンド商品造成支援及びPR
 - ・乗継航空券と宿泊のセットを安価に購入できるインターネット予約システムの広報
 - (2) その他就航路線利用促進
 - ・県内外の旅行イベント等に出席し、航空会社と連携した各路線のPR及び観光需要の喚起
 - (3) 普及啓発・広報活動
 - ・「小松空港の概要」作成
 - ・空の日・空の旬間事業への協力

これまでの見直し状況

施策・課題の状況					
施策	小松空港の国際化推進とポテンシャルを活かした物流拠点空港づくり				評価
課題	国内定期航空路線の維持・拡充				
指標	利用者数(チャーター便除く)			単位	千人
目標値	現状値				
平成27年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
2,526	1,877	2,025	2,121	2,126	

事業費						
(単位:千円)		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
事業費	予算	13,300	14,340	12,072	6,894	6,300
	決算	19,300	14,340	10,666	6,894	
一般	予算	9,300	10,340	12,072	2,894	6,300
財源	決算	15,300	10,340	6,666	2,894	
事業費累計		177,675	192,015	202,681	209,575	215,875

評価	
項目	評価
事業の有効性	左記の評価の理由
(費用対効果の観点も含め、この事業が課題解決に役立ったか)	
今後の方向性 (県民ニーズ、緊急性、県関与のあり方等を踏まえ、今後どのように取り組むのか)	

事務事業シート(行政経営Cシート)

事務事業名 小松空港活性化事業	事業開始年度	H24	事業終了予定年度	
	根拠法令 ・計画等			

作	組	織	企画振興部空港企画課		
成	職	氏名	主任企画員 伊東 平裕		
者	電話番号	076 - 225 - 1337 内線 3725			

事業の背景・目的
平成24年3月に策定された「小松空港活性化アクションプラン」に基づき、具体的取り組みを戦略的に実行に移すとともに、平成24年度に設置された小松空港活性化委員会において引き続き中・長期的な課題解決に取り組む。

事業の概要
1. 事業主体 小松空港協議会
2. 事業概要

- (1) 羽田便対策
 - ① 空港駐車場の料金低減
 - ② ビジネスリピーター確保策の強化
 - ③ 福井県流動層の取り込み
 - ④ 新幹線・能登空港との連携による需要創出
 - ⑤ 羽田に近い地域での販売強化
 - ⑥ 新幹線開業後の羽田便利用実態調査
- (2) 二次交通・情報発信対策
 - ① 空港アクセスの改善・充実
 - ・加賀周遊バス(キャンバス)小松空港線の5便化定着を支援
 - ② 空港情報発信の強化
 - ・アクセスガイド(二次交通情報)の改訂版発行
- (3) 新規路線の誘致
 - ① タイ双方向チャーター運航支援、エアポートセールス
 - ・チャーター便による実績づくり
 - ・タイ、香港の航空会社等へのセールス
 - ② 外国人団体の二次交通支援

これまでの見直し状況

施策・課題の状況						
施策	小松空港の国際化推進とポテンシャルを活かした物流拠点空港づくり					評価
課題1	国内定期航空路線の維持・拡充					
指標	利用者数(チャーター便除く)				単位	千人
目標値	現状値					
平成27年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	
2,526	1,877	2,025	2,121	2,126		
課題2	国際定期航空路線の維持・拡充					
指標	利用者数(チャーター便除く)				単位	千人
目標値	現状値					
平成27年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	
141	115	144	158	176		
事業費						
(単位:千円)		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
事業費	予算		7,500	10,000	35,700	50,000
	決算		7,500	10,000	35,700	
一般	予算		7,500	10,000	35,700	50,000
財源	決算		7,500	10,000	35,700	
事業費累計		0	7,500	17,500	53,200	103,200
評価						
項目	評価	左記の評価の理由				
事業の有効性						
(費用対効果の観点も含め、この事業が課題解決に役立ったか)						
今後の方向性						
(県民ニーズ、緊急性、県関与のあり方等を踏まえ、今後どのように取り組むのか)						

事務事業シート(行政経営Cシート)

事務事業名 小松空港国際線利用促進事業	事業開始年度	H5	事業終了予定年度	
	根拠法令			
	計画等			

作	組	織	空港企画課		
成	職	氏名	課長補佐 土橋 順一		
者	電話番号	076 - 225 - 1337 内線 3733			

事業の背景・目的
 小松空港発着の国際定期便及びチャーター便の運航支援と定期便の利用促進を図るとともに、乗客の利便性を高めることにより、小松空港の国際化を進める。

事業の概要
 事業主体:小松空港協議会

- (1) 国際定期便運航支援事業
 - ① CIQ業務の円滑化支援
 出入国審査及び検疫業務の円滑化のための支援(補助要員の派遣)
 - ② 外国語インフォメーション設置 等
- (2) 国際定期便利用国際交流促進助成事業
 国際定期便を利用して国際交流を行う団体に対する助成
 交付額: 1団体1回10万円限度
- (3) 国際定期便利用促進事業
 - ① パンフレット、ポスター作成
 - ② テレビ、新聞等マスメディアを利用した広報
 - ③ 航空会社等訪問

これまでの見直し状況

施策・課題の状況					
施策	小松空港の国際化推進とポテンシャルを活かした物流拠点空港づくり				評価
課題	国際定期航空路線の維持・拡充				
指標	利用者数(チャーター便除く)			単位	千人
目標値	現状値				
平成27年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
141	115	144	158	176	

事業費					
(単位:千円)	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
事業費 予算	49,953	76,330	49,874	54,474	47,474
事業費 決算	49,953	76,330	53,874	54,474	47,474
一般 予算	49,953	76,330	49,874	54,474	47,474
財源 決算	49,953	76,330	53,874	54,474	47,474
事業費累計	553,979	630,309	684,183	738,657	786,131

評価	
項目	評価
事業の有効性 (費用対効果の観点も含め、この事業が課題解決に役立ったか)	左記の評価の理由
今後の方向性 (県民ニーズ、緊急性、県関与のあり方等を踏まえ、今後どのように取り組むのか)	

事務事業シート(行政経営Cシート)

事務事業名 小松空港国際貨物利用促進事業	事業開始年度	H7	事業終了予定年度	
	根拠法令			
	計画等			

作	組	織	空港企画課		
成	職	氏名	課長補佐 森田 幸司		
者	電話番号	076 - 225 - 1338 内線 3739			

事業の背景・目的
 小松空港の国際物流拠点化を図るため、上屋会社である北陸エアターミナル(株)や航空会社とも連携して、フォワーダーや荷主に対して、小松空港利用を呼びかけ、小松空港の国際航空貨物取扱量の増加を図る。

- 事業の概要**
1. 国際航空貨物の利用促進(小松空港協議会)
 - ①フォワーダー・荷主への周知・PRの強化
 - ・荷主企業に小松空港への切替を促すための支援
荷主企業の物流ルート転換のトライアルを支援
 - ・航空貨物需要拡大のためのセミナー等の開催
 - ・CV利用促進のための展示会への出展
 - ②小松空港集荷助成
 - ・フォワーダー向け集荷助成
 - ・荷主向け輸出助成金
 - ・通関量増加対策助成
 2. ルクセンブルクとの交流強化(小松空港協議会)
小松空港国際化推進対策事業
 3. 新規事業開拓助成(北陸エアターミナルビル)
北陸エアターミナルビルが新たな荷主やフォワーダーを開拓し、貨物取扱量の増大を進める取組を支援
 4. 貨物保管料の軽減対策支援(北陸エアターミナルビル)
輸入貨物の小松通関する際に発生する貨物保管料を他空港と同等な扱いをすることで、小松通関貨物の増大を図ることとし、軽減措置における減収分を補填

これまでの見直し状況
 平成19年度、三大フォワーダーが小松空港に進出したことから、フォワーダー誘致支援を廃止
 平成24年度、フォワーダー向け集荷助成を新設

施策・課題の状況						
施策	小松空港の国際化推進とポテンシャルを活かした物流拠点空港づくり					評価
課題	国際物流拠点化の推進					
	指標	貨物取扱量(国内貨物を除く)			単位	トン
	目標値	現状値				
	平成27年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
	33,000	16,140	11,584	9,004	10,802	
事業費						
	(単位:千円)	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
事業費	予算	26,150	26,190	33,090	19,600	17,800
	決算	26,150	24,188	19,690	19,600	
一般	予算	26,150	26,190	33,090	19,600	17,800
	決算	26,150	24,188	19,690	19,600	
財源		決算	26,150	24,188	19,690	19,600
事業費累計			398,292	422,480	442,170	461,770
評価						
項目	評価	左記の評価の理由				
事業の有効性						
(費用対効果の観点も含め、この事業が課題解決に役立ったか)						
今後の方向性						
(県民ニーズ、緊急性、県関与のあり方等を踏まえ、今後どのように取り組むのか)						

事務事業シート(行政経営Cシート)

事務事業名 のと里山空港需要拡大等強化事業	事業開始年度	H13	事業終了予定年度		作 組 織 企画振興部空港企画課
	根拠法令 ・計画等				成 職・氏名 主任企画員 今村 昌大 者 電話番号 076 - 225 - 1336 内線 3724

事業の背景・目的
のと里山空港の安定的な需要の確保に向けて、首都圏からの誘客活動を推進するとともに、地元市町や関係団体と一体となって、マイ空港意識の向上を図りながら地元利用の促進に取り組む。

- 事業の概要**
- 【首都圏からの利用促進】**
- (1) 新幹線との連携
 - ・金沢駅と空港を結ぶ定期観光バス実証実験の拡充
 - ・広域利用のレンタカー料金低廉化実験
 - ・新幹線または小松空港と組み合わせた旅行商品の造成支援等
 - (2) 新規需要の開拓
 - ・連続テレビ小説「まれ」を活用した需要創出
 - ・羽田乗継利用を活用した全国からの誘客促進
 - ・丸の内朝大学と連携した外国人等の誘客
 - (3) 利便性の向上
 - ・ふるさとタクシーと観光タクシーの接続実験
 - ・空港利用者アンケートの実施
 - (4) 首都圏PRの強化
 - ・ぶらり能登キャンペーン ・HPによるPR等 ・「金沢+能登」の情報発信

- 【地元利用促進】**
- ・利用企画会議の活動を支援し、大相撲観戦ツアー等を働きかけ
 - ・首都圏等との交流団体への支援
 - ・賑わい創出事業
- (のと里山空港利用促進同盟会と連携)
- ・片道利用への助成拡大
 - ・地元発の新幹線&航空の企画旅行
 - ・ウイングネットワーク会員拡大、マイ空港意識の向上

これまでの見直し状況

- ①空港を核とした能登地域の振興を目的に、人・ものなどの交流拡大を図るため、実効性のある施策を検証したうえで展開していると共に、新幹線開業を見据えた取組も行っている。
- ②県民意識の高揚を図るため、空港の賑わい創出についても地元団体と連携のうえ取り組んでいる。

施策・課題の状況							
施策	のと里山空港の機能拡充と利活用の推進による地域拠点空港づくり					評価	
課題1	国内定期路線の維持・拡充						
指標	利用者数					単位	千人
目標値	現状値						
平成27年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度		
215	139	151	150	144			
課題2	国内定期路線開設						
指標	路線数					単位	路線
目標値	現状値						
平成27年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度		
2	1	1	1	1			
事業費							
(単位:千円)							
	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度		
事業費	予算	122,450	123,000	110,000	110,000	108,600	
	決算	122,450	123,000	110,000	110,000		
一般	予算	122,450	123,000	110,000	110,000	108,600	
財源	決算	122,450	123,000	110,000	110,000		
事業費累計	1,374,115	1,497,115	1,607,115	1,717,115	1,825,715		
評価							
項目	評価	左記の評価の理由					
事業の有効性 (費用対効果の観点も含め、この事業が課題解決に役立ったか)							
今後の方向性		(県民ニーズ、緊急性、県関与のあり方等を踏まえ、今後どのように取り組むのか)					

事務事業シート(行政経営Cシート)

事務事業名: のと里山空港二次交通支援事業	事業開始年度: H17	事業終了予定年度:
	根拠法令・計画等:	

作組	織: 空港企画課
成職・氏名	主任主事 新田 泰之
者電話番号	076 - 225 - 1336 内線 3737

1 事業の背景及び目的

のと里山空港の二次交通対策として、のと里山空港ふるさとタクシーへの運行支援を行う。

2 内容及び事業費

事業主体: のと里山空港利用促進協議会

事業名: のと里山空港二次交通支援事業費補助金

県、市町、民間が等分の負担により赤字補填を行い、運行維持を図っていくことでのと里山空港の利用促進につなげる。

(のと里山空港ふるさとタクシー)
 のと里山・羽田便の運航ダイヤに合わせ、空港利用者を送迎する相乗りジャンボタクシー
 のと里山空港開港時から平成17年3月まで実証実験として運行(国庫補助対象事業)
 平成17年4月より本格運行(県単独事業)

これまでの見直し状況

- 平成17年10月に、事業の持続性を高めるため、利用実態等を勘案のうえ、運行内容(エリア、料金)の見直しを実施。
- 平成19年度より事業の収支改善を図るため、運行事業者に対する運行委託費の見直しを実施。
- 平成23年度の運行事業者の選定について、競争入札制度を導入し、収支採算性の向上を図った。
- 平成24年度の運行事業者の選定について、サービス内容の確認や業務改善につながる提案を求めるなど企画提案方式を採用した。
- 平成24年7月より利用者の一層の利便性の向上を図るため運行ゾーンの見直しと運賃改訂を行った。

施策・課題の状況						
施策	のと里山空港の機能拡充と利活用の推進による地域拠点空港づくり					評価
課題1	国内定期路線の維持・拡充					
指標	利用者数				単位	千人
目標値	現状値					
平成27年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	
215	139	151	150	144		
課題2	国内定期路線開設					
指標	路線数				単位	路線
目標値	現状値					
平成27年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	
2	1	1	1	1		
事業費						
(単位:千円)						
(単位:千円)	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	
事業費	予算	2,710	2,710	2,710	2,710	2,710
	決算	2,710	2,574	2,710	2,710	
一般	予算	2,710	2,710	2,710	2,710	2,710
財源	決算	2,710	2,574	2,710	2,710	
事業費累計	18,925	21,499	24,209	26,919	29,629	
評価						
項目	評価	左記の評価の理由				
事業の有効性						
(費用対効果の観点も含め、この事業が課題解決に役立ったか)						
今後の方向性						
(県民ニーズ、緊急性、県関与のあり方等を踏まえ、今後どのように取り組むのか)						